

2025 年 大学行政管理学会 研究会・研究グループ活動 報告書

研究会等名称	大学職員研究グループ			
活動目的	<p>当研究グループは、1999 年1月に発足し、次の研究課題を念頭に活動してきた。このことは、大学行政管理学会の当研究グループのウェブサイトにも掲載されている。</p> <p>1) 大学経営・運営において専門的な実践力のある大学職員の在り方を研究する。 2) 本研究グループに参加する大学職員自身の自己研鑽活動を支援する。</p>			
参加資格・条件	当学会員をはじめ大学職員であれば、研究会への参加を可としている。			
活動状況	<p>① 年に2回ほどのペースで、土曜日の午後に開催してきた。</p> <p>② 過去10年を見ると、京都での開催が多く、直近では京都芸術大学で開催した。</p> <p>③ 当研究グループは、大学職員が学会を設立し研究するという当初のステージにおいて、職員の研究への目覚め等への役割を果たしてきたと考えられる。とりわけ、年間数回の研究会及び合宿研究会の開催を通じて、職員とは何か、職員は如何にあるべきかといった根源的なテーマに肉薄し、職員個人の悩み相談にも応じてきた。</p> <p>また、平成13(2001)年以降、毎年総会と同時に開催される研究集会においては、研究発表を行い、「大学職員－その属性」や「プロフェッショナルである大学アドミニストレーターの専門性－個人的能力のキャリアパス－」を発表し、大学職員への意識調査や学長や理事長への面談調査も行ってきた。これらの成果は、研究発表だけでなく、同学会誌やサイトでも掲載されている。さらに、平成27(2015)年以降は、毎年度初めに活動方針等を定め、研究会に小講演を取り入れるなどして活動を展開してきた。</p> <p>平成29(2017)年度からは、SD の義務化、教職協働、事務「遂行」組織への移行等が実施され、SD 自体は大学職員による自己啓発というよりも、大学が組織的に取り組むことが前提となっている。さらに、令和4年度の大学設置基準等の改正において、FD と SD の一体化が図られ、SD だけを殊更に採り上げることがナンセンスにも思える状況になってきた。</p> <p>これらのことは、大学職員は、個人の研究活動の一環として大学行政管理学会に所属することから、組織的な研修に寄与する(学会とは明言できないようなもの)に変質していることをも包含している。併せて、研究会における実際の参加者にあっては、職員研究に意欲をもって初めて参加される方々から学位取得者まで目的のスペクトルも大きく、その結果、研究会に求める役割の多様な変容が認められ、研究会運営においては、必ずしも一定の方向性を見出すことも出来ないような状況も散見される。</p> <p>④ これまでの活動の経緯を勘案し、大学行政管理学会の当初より継続している当研究グループとしては、既に一定の役割は終えていると考えられることから、今後の方向性として、研究グループの活動を一旦停止し、各論を追求しているグループとの合同も視野に入れつつ、今後の展開について再検討することとし、3年以上が経過した。併せて、学会の発表機会である総会・研究集会における近年の発表は、グループとしての発表よりも山本の個人発表になっていたため、平成30(2018)年度以降は研究グループとしての発表は見送ることにした。さらに、令和2(2020)年初頭からは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、オンサイトでの活動が制限され、オンラインによる研究会が開催されることが多くなっていた。</p> <p>令和6年9月には活動を再開し、第1回研究会においては、グループリーダーを長年務めてきた各務氏や秦氏と共に鼎談し、大学職員論そのものを振り返り、参加者との意見交換を踏まえ、新たな視点を模索する機会を持った。ただし、当研究会が大学職員論を検討課題の中心に置きフォーカスしたのは、その総論であり、既に総論の総括は終えているものと捉えている。</p> <p>こうしたことから、コアメンバーともあらためて検討を重ね、研究会活動を停止するという今般の判断に至った次第である。</p>			
①開催ペース (毎月1回、第何曜日など)				
②主たる開催場所				
③主な活動経過				
④現在の活動状況 ・研究テーマ等				
その他				
代表者	氏名 (よみ)	山本 淳司 (やまもと じゅんじ)	大学 部署	京都芸術大学 法人事務局
連絡先	電話番号	(075)791-9122	メール アドレス	j-yamamoto@office.kyoto-art.ac.jp